

3-1 先行詞の元の位置を確認せよ(1)

—— “空席”を探る(フィーリング読みの限界)

1 関係代名詞の後ろは名詞の欠落

関係代名詞の後続は“名詞欠落文”、つまり「先行詞となる名詞が欠ける構造」が続くことは、もう十分おわかりいただけたかと思います。

そして、**名詞が欠落するパターン**は以下の3つがあります。

- ① 動詞の主語が欠落 (主格)
- ② 動詞の目的語が欠落 (目的格)
- ③ 前置詞の目的語が欠落 (目的格)

このうち、②③の目的格の場合、関係詞を省略して「名詞 SV」という接触節がとれることはp.064で述べたとおりです。

対照的に、以下のものは**名詞の欠落のない“完全文”**が続きます。

- ① 関係副詞: where / when / why / how
- ② 前置詞+関係代名詞(第4章(p.133から)で扱います)
- ③ 接続詞: that / whether / if / becauseなど

関係代名詞を理解し使いこなす基本となるポイントが、この“名詞の欠落”という考え方です。同時に、その“空席の位置”を意識することも非常に重要ですが、このことが一般に徹底されていないようです。

関係詞節の中でいちいち名詞の空席位置を意識、確認するというのは一見面倒に思われるかもしれませんが、しかし、ここをいい加減にするようになってしまうと、後々関係詞がわからない、間違える、つまり誤読や勘違いの原因につながるのです。むしろ意識しなくとも無意識に(自然に)空席の位置を確認するという習慣を身体にしみ込ませる必要があります。

2 なぜ「空席の位置」を確認する必要があるのか?

試しに、次の文法問題に挑戦してみましょう。次の英文の()内に1~5から適切なものを1つ選んで入れてください。

(1) He said something in a dialect I could not understand ().

1. anything
2. a word of
3. of what country
4. what he meant
5. what to teach

* dialect 方言

この問題こそ関係詞理解の真髄を問うものであり、中途半端な理解では全く通用しないことを思い知らせてくれる問題です。例えば、1のanythingを空所に入れて訳してみると意味は一応通ります。

He said something in a dialect I could not understand *anything*.

「彼は私が何も理解できない方言で何かを言った」

しかし、残念ながらこれは英文としては完全に間違いです。おわかりでしょうか。ここでは名詞a dialectの後ろにI couldn't understand anythingというSVOが続くこととなります。これが接触節として先行詞a dialectを説明するにはa dialectの戻る位置が必要となるにもかかわらず、空席の位置がどこにもないこととなります。

He said something in a dialect ^ I could not understand anything. (???)

☞ ^ 以下はSVOの完全文 = a dialectの戻る位置がない

これは、その他の選択肢 3. of what country (どこの国か)、4. what he meant (何を言いたいのか)、5. what to teach (何を教えたらいのか) の場合も同様です。いずれの場合もa dialectを戻せる位置はどこにもありません。(4の場合what he meantの後ろが空席なのでは思われた方がいらっしゃるかもしれませんが、そこはwhatの戻る位置です。a dialectを戻せるわけではないことに注意しましょう)

正解は2. a word ofです。自力でこの解答を導けたでしょうか?

He said something in a dialect ^ I could not understand a word of ●.

「彼は私がひと言も理解できない方言で何かを言った」

例によって、2文に分解してみればはっきりわかります。

- ① He said something in a dialect
 - + ② I could not understand a word of the dialect
- ↑ _____ which _____

